

第 6 回緩和ケア看護師教育プログラム 修了後アンケート

5:大変そう思う 4:ややそう思う 3:普通 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない

回答人数 15 人

第 1 章:緩和ケアの概要

	5	4	3	2	1
1) 講義の内容はわかりやすかったですか。	11 人	4 人	0 人	0 人	0 人
2) 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながると思いましたか。	11 人	4 人	0 人	0 人	0 人
3) 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか。	12 人	3 人	0 人	0 人	0 人
4) 講義の内容に関心・興味がもてましたか。	11 人	4 人	0 人	0 人	0 人
5) 講義の内容で印象に残っていることがあればご記入ください。(自由記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんと診断されたときから切れ目なく緩和ケアが実施されるべき」というお話が心に残りました。 ・緩和ケアはがんと診断された時から始まり、意思決定支援、苦痛緩和、専門家への橋渡しが看護師の役割であること。 ・緩和ケアの概要について学び第 2 章以降につなげることができた。 緩和ケア=終末期ケア・ターミナルケアではなく、QOL の改善につながるため多職種の人との関わりが大切と学んだ。 ・緩和ケアの基本的な知識から学ぶことで、その後の講義も受講しやすかったです。 ・病棟のスタッフなので、専門 Ns への橋渡しが必要になること。 ・一般病棟で働く看護師としてできるケアとして、コミュニケーションや症状マネジメント以外にも、がん治療、緩和ケアの専門家による介入の必要性に気づくことも大切であること。 ・患者の信念や価値観に寄り添うためにも、忙しくても聞く姿勢を大事にしたいと思った。患者本人だけではなく支える家族を含めてケアを行うたいと改めて思った。 ・「良い看護師に出会えたことも家族の支えになる」 ・「患者さんとその家族との円滑なコミュニケーションや信頼関係の構築のため、忙しいときこそ、まず聞く姿勢を大事にする」等の内容が印象に残りました。 ・緩和ケアリンクナースとしてケアをつなげ、循環させること。 ・診断時から緩和ケアが始まっていて、より早く患者、家族の真のニーズを把握することが重要を内容があり、患者さんとの関わりを長く持つだけでなく、短い期間でも丁寧に抱えている不安や今後のことなど、真剣に聞いて、信念、価値観を知ることが大切だと思った。 ・患者さんのニーズに合わせて多職種でアプローチすることが必要と感じた。 ・チームの一員として介入の必要性を早めに判断し介入が必要と感じた。 				
6) 講義の内容で理解が難しかったことがあればご記入ください。(自由記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすかったです。 				
7) 講義の内容で質問があればご記入ください。(自由記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・患者さん本人が緩和ケアの必要性を感じてなくても、家族や医療者が必要だと感じた場合は、どう進めたらよいでしょうか。カンファレンスを本人以外で実施するのは可能なのか。 				

第2章：意思決定支援／緩和ケアにおける倫理的問題

	5	4	3	2	1
1) 講義の内容はわかりやすかったですか。	11人	4人	0人	0人	0人
2) 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながると思いましたか。	12人	3人	0人	0人	0人
3) 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか。	13人	2人	0人	0人	0人
4) 講義の内容に関心・興味がもてましたか。	13人	2人	0人	0人	0人
5) 講義の内容で印象に残っていることがあればご記入ください。(自由記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションは経験を積むだけでは向上しないことが分かった。今日学んだ基本的なコミュニケーションスキルを活かして日々トレーニングを積んでいきたと思う。 ・倫理原則を使って整理していくこと。 ・ICUで予後が悪い患者さんと日々関わる中、コミュニケーションスキルが重要だと、講義の内容から改めて感じました。「看護倫理」を指標として、より良い看護の在り方、その人らしさを大切にする関わりを模索していきたいと思いました。 ・病棟でACPの面談を行う際に会話が本題からそれていくなどスムーズに進まないことがあるため、NURSEのTell me moreのようなコミュニケーションスキルを用いていけば患者の感情表出を促進できると分かった。 ・意志決定できるように、医療者で支援していく流れや話の持っていく方が難しいと思った。日頃のコミュニケーションから、その人の価値観を読み解いていくといいことが分かった。 ・昨年度、症例検討で発表した患者さんで、患者さんの想いを表出できないままOPEしたのかモヤモヤすることがあった。 ・コミュニケーション。話して手が聞き手に与える影響の要素、言葉が7%であること。何も話さなくても多くを伝えていること。 ・コミュニケーションは経験ではなくトレーニングが必要という言葉に印象を受けました。患者さんの気持ちを表出できるよう誘導すること、気持ちの表出を促すことという言葉がけも大切に、その言葉の例もあって分かりやすかったです。 ・認知やせん妄などで意思決定が難しいとき、家族の思いだけでなく本人の思いを尊重できるよう、日頃のコミュニケーションを大事にして、情報共有やNsとして理解できるようにしたいと思う。 ・倫理と道德の違い。コミュニケーションスキル。患者さんにとって最善を家族と共に考える姿勢が看護師には必要である。 ・倫理と道德の違いについて。患者さんとコミュニケーションをとる場合に、受け入れる=合意ではないという話が心に残りました。最期どうありたいかは選ぶことができる。 ・看護師が患者に与える影響について、またコミュニケーションスキルについて理解できた。看護師の立場を考えながらも患者の立場に立ち、意思決定支援できるよう支援が必要と感じた。 				
6) 講義の内容で理解が難しかったことがあればご記入ください。(自由記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・共感プロセスで自分自身のものであるかのように感じても巻き込まれないようにしないといけないことは頭で理解出来ても、つい深く考え過ぎてしまい感情移入してしまいそうになる。 ・意思決定ツールが色々あり、それぞれの特徴や違い、コミュニケーションの基本などを改めて学ぶことが理解しやすかった。 				

7) 講義の内容で質問があればご記入ください。(自由記載)

・昨年度、症例検討会で発表した方は、自分の想いを表出しない人でした。なかなか自分の想いを声にしない患者さんに対し、どう接していくべきなのか正解はないと思いますが、アドバイスが欲しいです。質問ではないですが、すみません。

第3章:苦痛緩和

	5	4	3	2	1
1) 講義の内容はわかりやすかったですか。	12人	3人	0人	0人	0人
2) 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながると思いましたか。	13人	2人	0人	0人	0人
3) 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか。	13人	2人	0人	0人	0人
4) 講義の内容に関心・興味がもてましたか。	15人	0人	0人	0人	0人
5) 講義の内容で印象に残っていることがあればご記入ください。 ・現場で患者さんから身体的苦痛の訴えがよくあったけど、どのようにアセスメントとして症状緩和してあげたら良いか、難しいと思っていた。今日の対応アセスメントやポイント、副作用など知識や理解することで次の時にはこうしようと思える内容が多くあり、特に疼痛、気持ちのつらさは実践していこうと思う。 ・気持ちのつらさのケアについて印象に残りました。当病院では毎週化学療法の患者さんが入院しても来られるのが2~4日の入院期間で、なかなかゆっくり話を聴く時間がないので、もっと気持ちや症状についてしっかり観察していこうと感じた。 ・がんに関連した心理的ストレスによる情動を「気持ちのつらさ」と称すること。普段から、患者さんが気持ちの辛さを抱えている可能性があることを念頭に置き、表出しやすいよう傾聴を心がけ、信頼関係を築けるように努力したいと思いました。 ・オピオイドスイッチングでオピオイド鎮痛力価換算について ・苦痛緩和に対して、薬の作用や副作用を理解することで、積極的に使用していけたらと思った。現在病棟に放射線治療により食べられない方がいるため食欲不振ケアに関してすごく興味がもてた。 ・オピオイドスイッチングの説明が分かりやすかったです。 ・「がん性疼痛1つにも、その背景には不安等あらゆる痛みがある」ことは印象的でした。 疼痛緩和のため麻薬を使用するが、副作用も強くあるため、メンタルサポートや食欲不振に対するケア、症状マネジメントの大切さを学んだ。がん患者さん以外にも神経内科は難病で、進行性で治ることの難しいものもあるため、トータルペインを理解したいと思う。 ・それぞれの苦痛症状への対応・ケア方法や原因・定義などを改めて学ぶことができました。特にオピオイドの種類や作用機序など、またオピオイドスイッチングについて詳しく学ぶことができ、今後オピオイドを使用している患者さんを診る際にアセスメントを深めることができました。 ・痛みの緩和のバリア→医療者によるバリアはなくなっていきたいと思いました。 ・全人的苦痛があり、緩和ケアとチームアプローチが必要となる。身体的苦痛がその他の疼痛・苦痛へとつながるため疼痛の種類を注意深く観察することが大切である。 ・がん治療を継続するために麻薬を使うこともあるということ。 ・オピオイドの種類やスイッチング方法、副作用について理解できた。症状に合わせたケアや声かけの方法等、例が具体的ですぐに臨床で取り入れられそうで良かったです。					
6) 講義の内容で理解が難しかったことがあればご記入ください。(自由記載)					
・オピオイドスイッチングについては、普段 Dr.指示のまま動いているので自分で考えるということがこれま					

でなく難しかった。

・オピオイドの血中濃度到達時間

7) 講義の内容で質問があればご記入ください。

・特になし

第4章：専門家への橋渡し

	5	4	3	2	1
1) 講義の内容はわかりやすかったですか。	15人	0人	0人	0人	0人
2) 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながると思いましたか。	15人	0人	0人	0人	0人
3) 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか。	15人	0人	0人	0人	0人
4) 講義の内容に関心・興味がもてましたか。	15人	0人	0人	0人	0人
5) 講義の内容で印象に残っていることがあればご記入ください。(自由記載)	<ul style="list-style-type: none">・希望する療養場所が変わるので連携が大切。アサーティブコミュニケーションをとりながら連携をはかり、橋渡し、連携後にはリフレクションし、次のケアへ活かしていくことが必要である。・連携と同時に協働が必要となるという話が心にのこりました。・当院での緩和ケア専門家への依頼方法やそれぞれの違いについて詳しく理解することができたため、今後患者さんの苦痛緩和など少しでもよりよい看護を提供できるようにも専門家へ繋げていこうと思いました。・実際に外来でケモ前問診をとることがあり、専門チームへの依頼はしたことがないため、問診での聞き方をあらため、今抱えている悩みや困っていること等把握できるようにしたいと思った。・緩和ケア専門家への依頼方法。アサーティブコミュニケーション。・情報共有が大切であると分かった。Dr.になかなか分かってもらえないときもあるため、Dr.を含めたカンファレンスを行うことが重要と理解することができた。患者が苦痛なく治療できる環境作りをしていきたい。・医師と看護師だけでなく、看護師同士も「アサーティブコミュニケーション」をとることができれば、より良いチームワークで日々看護ができるのではないかと考え、みんなにこの研修を受講して欲しいとも思いました。リフレクション技法、日々の看護・育児に活用したいです。・効果的なカンファレンスについて。報共有について。・症状に対する質問票があることを知らなかった。今後気にして見てみたいと思った。・緩和ケアチームに対しての違いや依頼方法がとても理解できた。看護師として患者さんのQOLの向上ができるよう多職種との連携を学んだので今後担っていきたい。・多職種と連携する上で、介入の依頼方法について理解する必要があると感じた。				
6) 講義の内容で理解が難しかったことがあればご記入ください。(自由記載)	<ul style="list-style-type: none">・分かりやすかったです。				
7) 講義の内容で質問があればご記入ください。					
・特になし					

全体について

I. 本プログラムを受講して、早期からの緩和ケアの重要性が理解できましたか。

5. 大変 そう思う	4. やや そう思う	3. 普通	2. あまりそう 思わない	1. 全くそう 思わない
13人	2人	0人	0人	0人

II. 本プログラムの内容は、あなたの期待をどの程度満たしましたか。

5. 大変 満足した	4. やや 満足した	3. 普通	2. あまり満足 していない	1. 全く満足 していない
13人	2人	0人	0人	0人

III. プログラム全体や配布資料についてなど、ご意見・ご感想をお聞かせください。

- ・癌を患っている患者さんも多いて、コミュニケーションスキルや苦痛の緩和など臨床で活かせることが多く、とても参考になりました。患者さんの気持ちや症状を汲み取り、患者さんにとっていい看護ができるよう日々考えて行動していきたいと思いました。
- ・分かりやすい内容とプログラム、資料でとても学ぶことが多くありました。リモートは慣れておらず、参加日より前から準備してソワソワしていました。（本当に参加できるか不安で）でも、思っていた以上にリモート研修でも映像、音声が届くことなくできて聞きやすいとても充実した研修でした。
- ・資料はカラーでとても分かりやすかったです。本日の学びを病棟で実践していきたいと思います。
- ・受講の申請ができていたものと思い込み、確認を怠って申し訳ありませんでした。資料を準備していただき、受講を許可してくださって、心から感謝しています。今回学んだことを、これから日々の看護に活かせるよう努力します。ありがとうございました。
- ・資料も見やすく後から見直しやすい内容だった。実践していきたいと思った。
- ・緩和ケアにおけるナースの役割をしっかりと理解したうえで、患者さんに関わっていくことが大切だと分かった。
- ・詳しく講義していただき、ありがとうございました。コミュニケーションスキルを高めて、患者、家族の思いに添ったケアが行えるよう努力したいと思います。
- ・資料も見やすく、とても理解しやすかったです。今回の講義を受講し、緩和ケアの実態や重要性をより深く理解できました。
- ・わかりやすかったです。ZOOMでの研修は、参加しやすいので、今後もあるといいなと思いました。
- ・AYA世代のがん看護に興味があるため、今後も研修に参加していきたい。今後の看護師生活の役に立つ素敵な研修でした。ありがとうございました。
- ・声かけや介入方法など、具体的でわかりやすかったです。介入の必要性について、しっかりアセスメントし、早期に多職種で連携・介入できるよう取り組む必要があると感じた。